

サンプル問題

国語

この問題は 2025 年度一般推薦入学試験および高卒認定、海外帰国生徒、高等学校卒業生、定時制・通信制高等学校入学試験において実施される適性検査型「国語」のサンプル問題です。

※実際に出題される問題とは異なります。

日本福祉大学

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

高校生のキャリアデザイン

高校になると、文理選択や進学・就職選択など、将来を見据えた選択機会が増加する。

アメリカのいくつかの州では、高校進学時期の選択に備え、自分が進みたい分野を「仮決め」させている。進路選択を仮にやってみることで、自ら必要な情報を集め、意思決定できるように訓練するのだ。自分の希望する分野にどのような仕事があるのか、自分はなぜその分野を希望するのかといった内容をレポートにまとめ提出する。高校に入ると、⁽¹⁾リシユウ前に再度希望する分野を検討し、科目を選択する。アメリカでは日本よりも科目選択のバリエーションが多く、一人一人に合わせたカリキュラムがオーダーメイドでつくられるようになっていくのである。選択にあたってはカウンセラーにアドバイスをもらうこともある。つまり高校時代の科目選択そのものが、^(A)キャリアデザインになっているのだ。

ア 日本の現状を見ると、高校での進路指導は、大学進学を前提とした進学指導に偏っており、偏差値を使った大学と学部マッチングにとどまっている実態がある。高校を卒業してすぐに就職する人は十七％程度に過ぎないため致し方ない側面もあるが、大学に進学するにしても、高校の段階でいったん将来を仮決めることはとても重要なことである。実際に、医学部に進学しなければ、医者になる道は選ばなかったということであり、法学部に行かなければ弁護士にはならないと決めたということに近い。本人にはそのような認識がなかったとしても、将来を考えないということは、選択肢をどんどん失っていくということなのだ。

そもそもそのまま大学に行くのか、一旦就職してから大学に入学するのか、あるいは⁽²⁾センシユウ学校に進学するのか、じっくり検討して意思決定すべきだろう。選択の先送りからはじまる大学生活では、大学の四年間を充実したものにすることはできない。

進路決定時期について、^(B)国際比較した調査がある（リクルートワークス研究所 Global Career Survey 二〇一三年）。これによると、日本では高校時代までに進路を決めたという人の割合は三・八％に過ぎない。これはアメリカ二五・〇％、オーストラリア三二・五％、ロシア二二・九％、ブラジル三三・〇％、アジア諸国の約二〇％などと比べて⁽³⁾キョクタンに低く、**ウ**である。ほとんどの人（六六・三％）は大学生後期の「シューカツ」⁽⁴⁾のときに、就職先企業と進路をまとめて決めているのである。シューカツの時期ばかりに注目が集まるが、その時期に至る⁽⁴⁾カテイこそ見直されるべきではないだろうか。

大学生のキャリアデザイン

本書の読者には現在大学生の皆さんも多くいることだろう。そこで大学生がどのようにキャリアデザインをしていけばよいかを自ら考え

られるように、就職活動以前（主に一年から三年生のとき）と就職活動中とに分けて解説しよう。

就職活動以前

高校生のときと大学生のときでは何もかもが違う。c この変化にうまく適応できるか。それがまずポイントである。

高校生のときは何を学ぶのか、どう学ぶのかが概ね決まっている。それに対して大学生になると必修科目はあるものの、どう組み立てて自分なりの学習カリキュラムを組むか、任されることになる。はじめて、「自分は何を学びたいのか」という問いに向き合うのである。

エ

な動機に基づいて学習をする。これが重要なテーマだ。

d 何かを学びたいと思う↓学ぶうちにさらに知りたいことが増える↓そして学ぶことが楽しくなる↓どうしたらうまく学べるか工夫する↓新しい学び方を見つける↓自分なりの学び方ができてくる

このような変化がつながっていくことで、「学習するスキル」を身につけていくのである。

オ

企業が採用する人材に求めるのも オ を持った人だ。仕事上の必要性から、常に新しい情報を収集し、技術を学んでいくことが求められるが、e 大学生までにそれが身についていないと成長が期待できないからだ。

大学生のときにはぜひ「ものの ミ カタ・考え方」を学んでほしい。そのためにそれぞれの学問の概論の授業を大切にしてほしい。

（大久保幸夫『キャリアデザイン入門「I」基礎力編』日本経済新聞出版社）

問一 傍線部(1)から(5)の漢字表記で適切なものを、次の各群の①から④の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

(1) リシユウ ①履修 ②理修 ③利収 ④離集

(2) センシユウ ①選集 ②専修 ③先週 ④戦舟

(3) キョクタン ①極端 ②極淡 ③局短 ④局端

(4) カテイ ①家庭 ②課程 ③仮定 ④過程

(5) ミカタ ①味方 ②三方 ③見方 ④身方

問二 空欄 ア から オ にあてはまる言葉として最も適切なものを、次の各群の①から④の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

ア	①	だから	②	さらに	③	ひるがえって	④	つまり
イ	①	世界最低水準	②	世界最高水準	③	平均的	④	格差が大きい
ウ	①	就職活動	②	就農活動	③	就労活動	④	収納活動
エ	①	外発的	②	内発的	③	衝動的	④	行動的
オ	①	学習習慣とスキル	②	進路選択とスキル	③	学習カリキュラムとスキル	④	キャリアデザインとスキル

問三 波線部 A 「キャリアデザイン」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

① アメリカのいくつかの州では、進路選択を仮にやってみることで、自ら必要な情報を集め、意思決定できるように訓練しており、高時代の科目選択そのものが、キャリアデザインになっている。

- ② アメリカのすべての州では、進路選択を高校一年時に決めて、自ら必要な情報を集め、意思決定できるように訓練しており、高校一年時の科目選択そのものが、キャリアデザインになっている。
- ③ アメリカのいくつかの州では、進路選択を中学時代に決めて、自ら必要な情報を集め、保護者が意思決定できるようにしており、中学時代の進路選択そのものが、キャリアデザインになっている。
- ④ アメリカのいくつかの州では、進路選択を保護者、教員、生徒と面談を何度も重ねて、それぞれが必要な情報を集め、意思決定できるようにしており、高校時代の科目選択そのものが、キャリアデザインになっている。

問四 波線部 **B** 「国際比較した調査」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 日本では高校時代までに進路を決めたという人の割合は、アジア諸国より高い。
- ② アメリカでは高校時代までに進路を決めたという人の割合は、ロシアより高く、オーストラリアより低い。
- ③ ブラジルでは高校時代までに進路を決めたという人の割合は、アメリカやアジア諸国より低い。
- ④ 日本では高校時代までに進路を決めたという人の割合は、各国より最も高い。

問五 波線部 **C** 「この変化」とは何を指しているか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 就職活動は、大学時代に決まっている。
- ② 高校生のときは何を学ぶのか決まっている。
- ③ 高校生のときと大学生の時では何もかもが違う。
- ④ 大学生になると必修科目がある。

問六 波線部 **D** 「何かを学びたいと思う↓学ぶうちにさらに知りたいことが増える↓そして学ぶことが楽しくなる↓どうしたらうまく学べるか工夫する↓新しい学び方を見つける↓自分なりの学び方ができくる」とは、どのようなスキルを指しているか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 成長するスキル
- ② 学習するスキル
- ③ 就職するスキル
- ④ 進路選択するスキル

問七 波線部 E 「大学生までにそれが身についていないと成長が期待できない」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- ① キャリアデザインの必要性から、常に新しい情報を収集し、成長するスキルを学んでいくことが求められる。
- ② 仕事上の必要性から、常に新しい情報を収集し、技術を学んでいくことが求められる。
- ③ 進路選択の必要性から、不要な情報は除外して、各種研修を行なっていくことが求められる。
- ④ 人間関係を良好に保つ必要性から、自らの言動には気をつけて発言することが求められる。